

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500204		
法人名	社会福祉法人奥州市社会福祉協議会		
事業所名	グループホームゆきつばき棟		
所在地	岩手県奥州市胆沢区南都田字石行30-1		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果市町村受理日	平成28年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2014_022_ki_hon=true&Ji_gyosyoCd=0391500204-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夏祭りや敬老会等の行事や外出行事等とおして、地域の方々を巻き込んだ行事を計画したり、夜間の消防訓練時には地域の協力を頂く等、地域との交流が図れるような取り組みを行っている。そのほか、月1回傾聴ボランティアを受け入れ、利用者の声を聞いていただき利用者が安心して暮らすことができるよう支援している。今年度は、利用者の声を生かし、初めての夕食を行ったり、敬老会には寿司職人のボランティアや歌、踊り等のボランティアの受け入れを積極的に行い、利用者が楽しく暮らせるよう工夫を凝らしている。また、施設での様々なレクリエーション活動を写真にとり、毎月家族にお渡しする事で家族が施設での様子を知ることが出来るよう今年度より新たに取り組んでいる。利用者も家族も安心してこの施設に入所して良かったと思えるよう創意工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に、利用者・家族・住民代表・民生委員・ボランティア・消防署・協力病院・行政等の多角的な主要な方々が出席し、様々な角度から、ホームの状況を把握・共有している。特に防災についての指導・医療連携・地域との繋がり等は会議を通じて、協力関係等が築かれている。他に、優れている点として、職員と利用者が尊厳を維持し、人生の先輩・後輩の様な雰囲気と和やかに過ごしている。利用者からの希望を組み入れた食事メニューとしており、食欲を掻き立てている。運営推進会議へ協力病院からの参加もあり、ホームの状況を共有して頂き、今後の医療連携体制への本人・家族の安心につながっている。運営推進会議の際に働きかけることで、地域の方の避難訓練への参加や、夏祭りその他のイベントの参加があり、地域との繋がりが深まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「優しくあれ」「温かくあれ」「そして共に笑顔であれ」を理念に掲げているが職員が増えてきたことでまだ共有までは至っていない。	奥州市社協介護サービス事業の統一理念を、事務所正面に出入りする際に、目につきやすいところに大きく、掲示しており、全職員の意識昂揚を図っている。利用者への声掛けも活発で、ホーム内の雰囲気は明るい。グループホーム独自の理念も機会を見て考える予定としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや敬老会に地域の方々への呼びかけを行ったり、消防訓練時、地域の方々と合同で行ったりしている。また、広報誌を地域へ配布し当事業所に対して理解をいただけるようにしている。	周囲の環境に恵まれ、日常の散歩が楽しみとなっている。地域の方との挨拶や会話も楽しみの一つである。近くの図書館に、イベントや本を借りるなど頻繁に出入りしている。また、近くの保育園児が、グループホームの前を往来する姿をホーム内から眺め、利用者は元気をもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はサロンからの要請は無かったが、キャラバンメイトとして参加し、地域に出向いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実状、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員から出された意見を取り入れ消防訓練を実施したり、服薬事故に関しては病院との連携を図ることが可能となったり、様々な点にて意見をサービス向上に活かすことが出来ている。	行政・病院・消防・民生委員・住民・家族・利用者等、様々な立場の方が委員となり、事業所の実状や利用者の状況について把握し、意見交換を行い、活発な会議運営がなされている。特に、防災訓練については、様々なご意見等を頂き、一つずつ取り組む努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として委嘱しており、会議等で施設の実情を報告し助言を頂いたり、直接電話にて助言を頂いたり、連携が図れるようにしている。	市主催の集団指導会や介護支援専門員の連絡会議や推進委員会時などで情報交換し、共有している。また、市の健康福祉課が近くにあり、制度等の不明な点については直接出向き、担当者と相談することもあり、常に連携は保つよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない様職員一人一人が利用者の行動を把握しながら対応しているが、寝ている時などはセンサーマットやマットのみを使用する場合がある。また昨年度までは夜間でも施設の施錠をしていなかったが夜間の危険性を加味し今年度からは、夜間【23:30～6:30】まで施錠を行っている。	以前は、夜間も玄関に施錠してないこともあったが、現在は安全を考え、夜間は施錠している。日中は、職員の要望で、タッチセンサーを備えている。また、ふらつき、立ち上がり転倒の危険のある利用者については、家族の了解を得て、センサーマットを使用している。職員は、一人ひとりの行動を把握し、確認し合って穏やかな暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加をしたり、リスクマネジメント委員会を設置し、虐待等に似た行為があった場合は即職員会議にて話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協の事業の一つとして行われているが対象者がいないこともあり研修等は行われていない為理解できていない部分もある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には自宅へ訪問し、家族、本人へ説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来園した際に日常の状況を説明するとともに、月1回本人の写真を添え、現在の状況をお知らせする事により、家族の意見や要望を聞いている。	家族には毎月、請求書とともに、利用者の普段の状況をお知らせしている。来訪した際には、日頃の様子をお話し、意見・要望などを聞くように気配りしている。また、運営推進会議にも出席して頂き、発言も頂いている。「夜間訓練に協力したい」「床屋さんを出前でして頂きたい」「健康維持のためコーヒーの砂糖を少なくしてほしい」等々の意見や要望が出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議を設け意見を出しているが代表者や 管理者等に反映するまでは至っていない。	グループホームとデイサービスが、毎月、合同で職員会議と、評価会議を行っており、会議を通して職員の意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけている。グループホーム内のイベントに関するアイデアや、勤務体制に関する意見を話すこともあり、可能なことは反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	4月嘱託職員から正規職員へ1名昇格となっている。9月より職員体制が変わり、日々の業務をこなすことに追われ時間のゆとりができないことから、やりがいをもって業務に当たる事ができない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の所内研修会とリスクマネジメント委員が設ける研修会、県の研修会等に参加しているが、それを日々の業務の中で全職員が周知、理解するまでには至っていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加する機会やキャラバンメイトとして交流をもったり、グループホーム施設での交換研修を行う等、他施設との交流を持つ事は出来ているが、サービスの質を向上させる取り組みまでには至っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の契約時に担当の職員が訪問し面接を行うことで心身の状態や本人の要望等を聞いている。また、入所後も日々本人の要望をきき、安心して生活を送る事ができるよう信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所判定会議にかける前の段階で訪問調査を行い家族の意見を聞いている。また、契約時も自宅を訪問し家族の意見や要望を聞き、入所後も電話等にて確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のアセスメントを通し、現段階で必要なサービスを抽出している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来るところを探し、職員と一緒にいる事で関係性を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族等と常に連絡を取り合い、来所時には必ず本人にあって頂きゆっくり話ができるようにしている。また、話題を提供する事で本人と家族の関係性が構築できるよう対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩がてら親戚の家へ立ち寄ってきたり、来所時には他の利用者をも交えながら会話ができるような場面を作るようにしている。	家族・親戚以外にも、利用者の同級生が訪ねてきたり、定期通院対応のため遠方の家族が訪問したり、馴染みの床屋が来たりなど、頻りに交流している。他の利用者への配慮で、面談室や新聞コーナーでくつろいでいただき、職員はお茶を出したり、よりよい交流の場となるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状の強い利用者には、職員が間に入り他の利用者との関係が悪くならないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は家族との連絡はとっていない。特養へ入所した際には、施設職員から連絡がきた際に入所時の状態等情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時や居室訪問時等、1対1になった時に本人の意向等個別に聞いている。	入居時に、本人・家族から聞いている趣味や生活歴を全職員で共有し、日々のケアに当たっている。また、1対1の入浴時や、散歩時に思いの吐露があり、普段遠慮がちな方でも、気持ちや意向を述べることが多い。「紅葉見物がいいな」、「草取りをしたい」等々話している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に家族や本人に聞き取りをしている。また入所してからも本人との会話の中から情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録を行うとともに、申し送り時に今日の出来事や利用者の状況を伝える事で職員間で共有出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の評価会議にて個別の入所者の状況等を職員より聞き取り、介護計画に反映している。介護計画に基づいて、職員が統一した介護ができるように努力している。	各棟ごとの評価会議で、日々のミーティング記録や支援経過記録等を参考にし、また、直接本人・家族からの思いや意向を踏まえ、プランに反映させるようにしている。アセスメントを含め、職員全員で意見交換やモニタリング・カンファレンスを行っている。日々の暮らしの中で、変化があった際には、家族との連携を保ちつつ、臨機応変に見直すようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録の欄に特記事項を設け、1日の中で利用者の変化が見られたことや、注意点等を書くようにしたことにより早期発見ができ介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズが生まれた際には、家族に連絡をとり協力を頂く等柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域では農家で野菜を作っている方々が多く、自家製の野菜を頂いたり、野菜の収穫へ利用者が出かけたり、楽しみが持てるよう工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の基本は家族対応としているが、日々の本人の状況等を書面にて主治医に情報提供している。家族対応が難しい場合には職員が対応し、主治医と面談している。	家族対応の受診となっているが、車いす利用者(5名)は、職員が送迎介助している。その他、緊急時や家族が不都合な場合には、職員が対応している。受診時には、1週間以内の利用者の健康状態を医師に報告し、医師からの診療結果は、事業所と家族で、確認し合っている。また1名の利用者が、毎月、訪問診療を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の様子や状態に変化があれば看護師に状況報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院との連携を図る為に面会や看護師等と情報交換を行える体制になっている。また、訪問診療や訪問看護等の受け入れ等も行ってはいたが現在は対象者がいない。今後そのような状況になった場合には対応をしていく体制にある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については今後必要と考えているが、職員の研修が不十分である為全員が対応できるまでに至っていない。	重度化した利用者については、家族・担当医師との相談のうえ、他施設・入院・訪問診療等での対応を考え、安心した連携を取れるようにしている。看取りは、未経験である。重度化にかかる指針や緊急時マニュアルの資料は取り寄せているが、事業所としては作成までには至っていない。今後、喀痰やAEDの定期的な研修も併せて実施しようと考えている。	重度化・終末期支援のあり方や事業所としての対応について、段階的に家族・かかりつけ医等と意向を確認しながら、対応方針の共有を図っていくことが大事である。事業所として対応し得る重度化・終末期に向けた最大の支援方法を踏まえて、指針を用意することを期待したい。併せて喀痰やAEDの定期的な研修実施も期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人職員の研修が不十分であり、全職員が対応できるまでには至っていない。所内研修に取り入れるよう今後検討したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に1回、日中の訓練のほか、実際に地域住民を交え夜間の消防訓練を行う事ができている。	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の立ち合いで、夜間訓練を実施した。地域の方々7名の応援を頂き、特に役割の指示は出さなかったが、素早く駆けつけ、利用者の誘導を協力して頂き、強い必要性を感じた。車いす利用者が5名なので、機会を見つけて、操作練習を実施したい。消防署の講評で、いくつかの課題が見えてきた。	消防署からの助言事項について、一つ一つ検討し、対策を取ることを期待したい。災害は火災だけではなく震災もあり、大地震時のとっさのとりべき基本行動等を、消防署を交え運営推進会議時の話題として取り上げ、意見交換されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状態や性格等を把握し本人に理解しやすい言葉で話しかけたり、入浴についても個別に行ったり、プライバシーにも配慮している。	職員は、利用者の長所や短所を踏まえた個性を把握しており、利用者への声掛けも、耳の聞こえに配慮し対応することを(職員は)共有しながら、適切に対応している様子が窺われ、程良い温かさを感じられる。面白おかしく会話もされており、笑いもあつたりと、和やかな雰囲気が醸し出されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話を大切にしており、常に本人の思いを聞き対応できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自発的な行動ができない利用者に対しては職員の誘導が多くなっているが、意向をもっている利用者に対しては希望に沿えるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔保持に努めており、毎朝の着替えや整容等に見守りや声掛けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事量や食形態を本人の状態に合わせて提供している。また、手伝いができる利用者には手伝って頂いている。その他、本人の好みを聞き、バイキング形式の食事をしたり、楽しめる環境作りを心掛けている。	両棟の食事メニューは別々で、日頃の会話や散歩時等に希望を聞いたりして、献立を決めている。定期的に、職員が決めた献立表を、管理栄養士に見てもらい、アドバイスをもらっている。片付け等も、利用者のうちできる方は職員と共に行っている。同じテーブルを囲んでの楽しそうな雰囲気づくりも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事摂取量や水分量を記録し、本人の状態把握をしている。食事量や水分量が少ない利用者については声掛けをし不足にならないよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前は口腔体操を行い、食後は口腔ケアを毎回行っている。自分でできる利用者には声掛け身守りを行っている。また、異臭や口腔に問題が見られた場合は早期に歯科受診するよう家族に連絡し対応していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレ誘導しできるだけトイレにて排泄ができるよう対応している。	排泄パターンを把握し、さりげない誘導で失敗防止に心掛けていることもあり、安定的にトイレでの排泄が行われている。また、リハビリパンツ使用の方が、適切なケア等により布パンツの使用となり、利用者と職員の取り組みにより、改善傾向の方もいる。ポータブルトイレの使用者は、両棟で3名だが、1名は夜間だけ使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄チェックを記録し、便秘にならないよう食事を工夫している。また、便秘がみられる場合は、青汁やヤクルト等を提供したり、体操と散歩等利用者の状態に合わせ個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員体制の問題があり個々に合わせた入浴は難しいが、入浴の際は本人がゆっくり楽しめるよう個別に行っている。	生活リズムに合わせて、週2~3回の入浴としている。体調や気分で、時間の変更や曜日の変更も対応している。足冷え等で睡眠が妨げられる方は、足浴をしている。着替えは、両棟合わせて5名の方が自立可能で、他の利用者は、難しい部分を援助している。風呂場は、良い語らいの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向に沿って、眠れない利用者に対しては、職員と会話をしたり、飲み物を提供したり安心して気持ちよく眠ることが出来るよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の利用者が何の薬を何個飲んでいるか把握できるようチェック表を作り活用している。また、服薬拒否や本人の状態変化が見られた場合は、病院へ相談できる体制になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ることを見出し、洗濯ものをたたんで頂いたり、野菜を切ってもらったり、草が気なる利用者には草取りをして頂いたり、本人の役割が無理なくできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は近隣を散歩したり、イベント等に出かけたり、図書館へ出かけたり、ドライブ等計画を立てている。今年度は初めての夕食を行い、利用者に喜ばれている。	外出するには恵まれた環境で、利用者の希望・天候等を見て、散歩・買い物・ドライブ等に頻繁に出かけている。散歩は、車いすの方(5名程)も、全員参加している。買い物や夕食は、家族と出かける方もいる。近所に図書館もあり、イベントや本の貸し出しで、頻繁に行っている。時には、公園並みの前庭で、お茶会も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、問題が生じやすいことから所持しないようにしている。必要時には家族に連絡しお金を持参していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話をかけ取り次ぐ等希望があればその都度対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状態が低下傾向にあり、装飾等はできないが毎月のカレンダー作りを行い季節感が味わえるようにしている。また、室内の温度や湿度の変化にも対応できるよう加湿器や空調、温風ヒーター等を整備し快適な環境で過ごせるよう対応している。	共用のホールに入り、季節感のあるクリスマスの飾り付けが、まず、目に入った。ゆったりとした空間にテーブルが配置され、チラシで、紙細工を楽しんでいる方や、テレビの前のソファで、歌謡番組のビデオを鑑賞している方や、広い庭の景色を眺めている方など、思い思いにくつろいでいる。多方向からの日差しで、廊下も含め明るい感じが印象的である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居心地のよりところで過ごせるよう個々に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや思い出のあるもの等を持参していただき居室内に飾ったり、居心地良く過ごせるよう工夫している。	入口にあじさいの絵が飾られ、ベッド、洋筆筒、小筆筒、床頭台、洗面台が備え付けてある。それぞれ自作のカレンダー、ぬり絵や習字等を掲示し、本人や家族が自由にレイアウトできるようにしている。ベッドからの立ち上がりに心配のある方には、本人と家族の承諾のもと、ベッドを外し、床にセンサーマットを敷き、安心と安全を確保している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができるようホール内には手すりを設置しているほか危険のあるものは置かないように工夫している。また、自分の部屋が判るよう、のれんを付けたり、居室に名札等を設置したり工夫をしている。		